

想定最大規模降雨時の洪水浸水想定区域図の作成

【主な変更点】 公表済み洪水浸水想定区域図と今回検討の主な違い

項目	公表済み	今回検討 想定最大規模	備考
前提となる降雨	年超過確率1/100の 降雨規模	想定し得る最大規模 (L2規模)	参考として、年超過確率1/10、1/30、 1/50及び1/100も計算
計算メッシュサイズ	50mメッシュ	10mメッシュ	計算機器の向上等により、 精度の高い解析が可能となった
地盤高の評価	デジタルマップや1/2,500地形図 データ、簡易GPS測量を用いた 50mメッシュで設定	最新の航空測量データと国土地 理院5mメッシュデータを用いた 10mメッシュで設定	
河道横断	S54、H16、H17 測量成果	S54、H16、H17、H26測量成果	
浸水深 のランク区分	～0.5m 0.5m～1.0m 1.0m～2.0m 2.0m～5.0m 5.0m～ の5段階	～0.5m 0.5m～3.0m 3.0m～5.0m 5.0m～10m 10m～20m 20m～ の6段階	家屋の高さを考慮
その他	流速、歩行困難度、家屋倒壊の 可能性(流体力)を検討	家屋倒壊等氾濫想定区域 の表示	避難活動に資する情報
		浸水継続時間等の表示	

この他、技術基準が更新されたことにより、細部の計算条件等も変わっています。

【最新の技術基準:「洪水浸水想定区域図作成マニュアル(第4版) H27.7」】